

日本学術会議の声明と決議を支持する理事会声明

2025年3月7日に閣議決定された日本学術会議法案に対して、日本学術会議は2025年4月15・16日開催の第194回総会において声明「次世代につなぐ日本学術会議の継続と発展に向けて～政府による日本学術会議法案の国会提出にあたって」（以下、「声明」）を可決するとともに、「日本学術会議法案の修正について」を決議（以下、「決議」）しました。

「声明」では、ナショナルアカデミーとして日本学術会議という組織が満たすべき5つの要件、すなわち、①学術的に国を代表する機関としての地位、②そのための公的資格の付与、③国家財政支出による安定した財政基盤、④活動面での政府からの独立、⑤会員選考における自主性・独立性が示され、「決議」では、日本学術会議法案が5つの要件のうち特に④と⑤の要件を満たしておらず、むしろ独立性の阻害が強く懸念されることから、この懸念を払拭すべく同法案の修正を求める旨が可決されました。

日本文化人類学会理事会は日本学術会議が示す懸念を共有し、同会議において可決された「声明」と「決議」を支持するとともに、今後、国会において慎重な審議が重ねられ、ナショナルアカデミーの基となるに相応しいかたちで日本学術会議法案が修正されることを求めます。

2025年4月26日

日本文化人類学会第31期理事会